吉田南中だより

令和５年２月２８日
鹿児島市立吉田南中学校

３月の主な行事

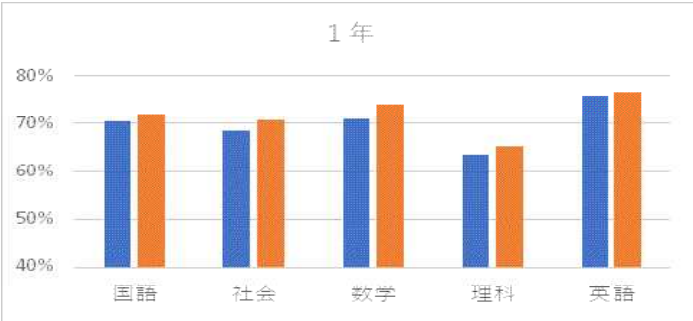
３月					
日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
2	木	1年生：環境学習　2年生：ｷｬﾘｱﾃﾞｰ	13	月	卒業式準備　部活動中止
		公立高校入試（～３日）健康教室	14	火	卒業式　部活動中止
3	金	クラスマッチ（１年生）PTA評議員会	15	水	公立高校合格発表　部活動あり
7	火	学年朝会　クラスマッチ（２年生）	16	木	学級専門部会
8	水	箏の体験学習（１年生）	17	金	生徒会専門委員会
9	木	クラスマッチ（３年生）PTA理事会	21	火	春分の日　吹奏楽部ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾐﾆｺﾝｻｰﾄ
10	金	同窓会入会式	24	金	修了式　離任式
		卒業式予行	25	土	春季休業（～４／５）

※　４月の主なＰＴＡ行事　６日（木）始業式／入学式　10日（月）２・３年生　ＰＴＡ役員決め
12～20日　三者相談　21日（金）ＰＴＡ総会・学年学級ＰＴＡ
25日（火）ＰＴＡ専門部会

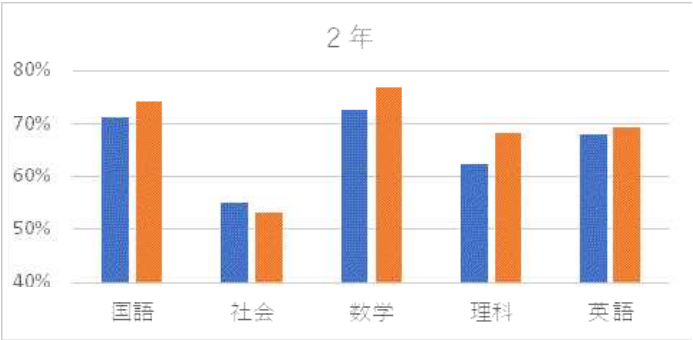
令和４年度　学習定着度調査

令和４年度鹿児島学習定着度調査の結果をお知らせします。本校では結果を分析・考察して授業改善や個別指導に取り組んでいきます。保護者の皆さまには，家庭での予習・復習の大切さについて，引き続き御指導ください。

１年生



２年生



学校の取組	
国語	・通過率の低かった言語事項を，繰り返し指導する。 ・「読むこと」の内容理解や同義文判定など，リーディングスキルを高められるように，自分の言葉で説明する場面を増やす。
社会	・Web問題や鹿児島県定着度調査の過去問にある内容を追求する場面を，授業の中に取り入れる。 ・基本的な語句について，毎時間の小テストや，授業内でくり返し確認することで定着を図る。
数学	・テスト返却時に確認や復習の時間を確保し，解説を行った。また，学年末テストでも通過率の低い問題を出題し，くり返し取り組ませている。 ・新しい単元に入る前に，既習事項とのつながりを意識し，通過率の低い問題の復習を行わせる。
理科	昨年に引き続き，公式を使った計算に行う際は，単位の意味をしっかりと理解させ，ただ当てはめるだけにならないように，学ばせる。また，重要語句の確認テストを増やし，基礎の定着を図る。
英語	・長い英文をまとまりとして理解できるように，日頃から音読，速読に取り組ませる。 ・技能の統合を図るため，まとまりや前後の文脈のつながりがある英文が書けるように，口頭での練習，記述と段階的に指導をする。

変わる高校入試　～　キャリア学習

今年の推薦入試，私立高校入試等を終えて，今年度強く感じた新たな変化について，皆さんと共通理解したいと思います。

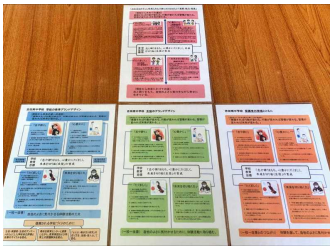
まず，私立入試の「出願方法」です。昨年度は１校が「web出願」をスタートさせましたが，今年はかなりの私立高校で，出願手続きをするのが「中学校」から「保護者・本人」へとスライドさせる方法をとりました。従来通り，生徒の「調査書」については学校が作成して高校に送るのですが，学校で書かせていた「願書」については各家庭で１人１台端末を使用して家庭が責任をもって作成し，出願する方法へと変わったのです。

次に，私立高校の合格者ボーダーについてです。今年の結果は，県内全域でかなり厳しいものでした。今年の県内全域の結果を見て，一つ言えることは，昨今は，「公立・私立という区分ではなく，学校・学科の特色，本人の進路適性を鑑みて受験する高校を選択する時代へと移行してきている。」ということです。もちろん元々そうであったことには間違いないのですが，その状況がより色濃く出てきていると感じます。

学校でもキャリア教育の一環として進学指導をしていますが，学校側はもっと多くの情報を入手し，生徒や御家庭にお伝えしていく必要があります。また，御家庭でも既存の「高校には行っておく」というような考えにとらわれすぎず，「何のために，何を学びに，どこに行くのか，どういう将来像を描いているのか」という生徒一人一人の『キャリア』に関するお話を１年生・２年生のうちからしていただきたいと思います。

２月22日には，２年生を対象に私立高校の先生方をお招きしてキャリア学習を実施しました。高校を何で選び，それまでに何が必要なのか。考え始めるのに早すぎるということはありません。生徒たちの思い描く未来の姿に近づけるよう，ともに動き出しましょう。

まず，思わなければ，そうはならない
～家庭・学校・生徒個々の役割～



教育においては，家庭は家庭の，学校は学校の，生徒は生徒自身の役割があります。各人が役割を意識して果たしていくことで，子供のよりよい成長に 資することができると考えています。

各人の意識を可視化するために，保護者や生徒の外部アンケートなど実施し，次に学校は「学校自己評価書」を作成します。さらに，学校は，学校自己評価書を学校評議員の方々に見てもらい意見をもらうことで，年間を通した評価・改善というサイクルを繰り返しながら，よりよい教育活動を推進し続けていくことになります。

具体的には，令和４年度本校では，学校の経営方針を，子供の姿としての「志や誇り」・「知」・「徳」・「体」の４項目について再構成し，さらに，家庭・学校・生徒用の３つのグランドデザインをつくりました。この３つのグランドデザインをもとに保護者・生徒・教職員にアンケート回答をしていただきました。見取る内容は，総花的（そうばなてき）でなくシンプルにしました。

また，子供たちが素敵な大人になったときの姿を想像しながら，「おおばるの子に将来にわたり身に付けさせたい資質・能力」もつくりました。詳しくは，本校ホームページに掲載してありますのでご覧ください。

故稲盛和夫氏は「まず，思わなければ，そうはならない」と著作の中で述べられておられます。人の教育は学校だけではできませんので，ある程度の時期までは，御家庭の力をお借りしながら子供たちの意識や考え方，それに伴う行動の方向をそろえながら教育を進める必要があります。そのための「学びの地図」である「令和５年度教育課程」を全教職員と伴に，魂を込めてつくっているところです。

（参考：〇中央教育審議会初等中等教育教員養成部会合同会議議事録
〇「心を高める，経営を伸ばす」　稲盛和夫　PHP
〇吉田南中学校教育課程

校長　塚元　宏雄